■土壌汚染調査等の状況について

◆ 土壌汚染調査等の現状

・土壌汚染調査については、平成２２年度に、簡易な地歴調査（平成２３年３月時点）を実施。
指定調査機関が行った調査の結果によると、地歴や建物毎の特定有害物質の使用等の履歴から、理系キャンパスについてほぼ全域が土壌汚染のおそれがある もしくは おそれが少ないエリアとなっている。

・土壌汚染状況調査の対象には、排水管等排水設備も含まれる。特定有害物質を使用等する施設からの排水が排水管に流入し続ける限り、土壌汚染のおそれが継続しているとみなされるため、重複した調査を行なわずに済むように、排水設備の切替え等が必要となる可能性も有る。

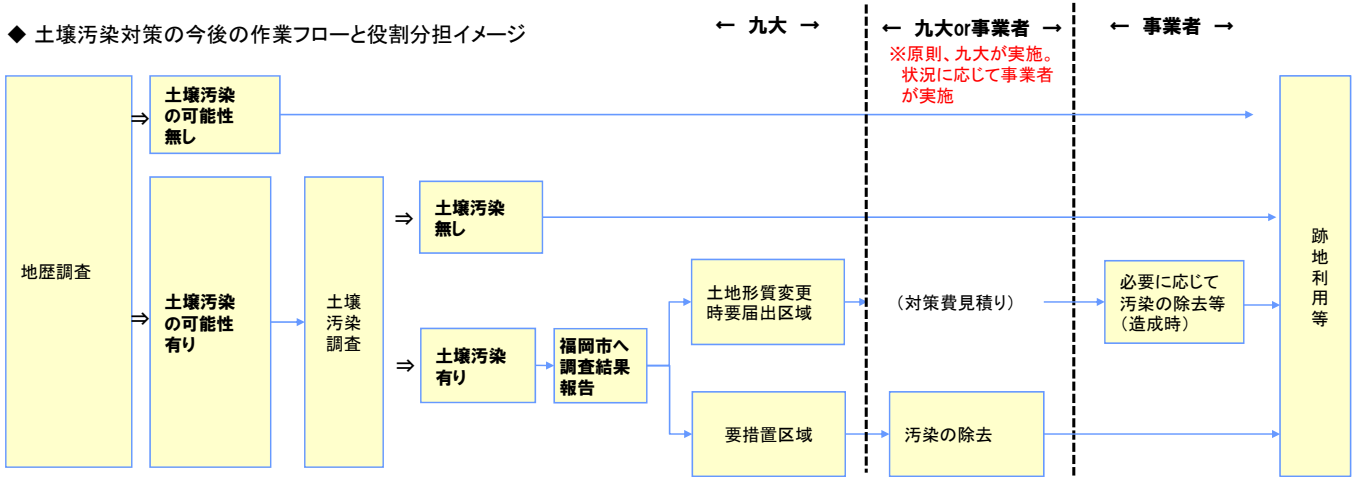
・今後は、移転済の工学系地区から、地歴調査、土壌汚染調査を実施していく予定であるが、理学系・農学系の移転進捗中での土壌汚染調査となることから、随時、福岡市環境局と協議しながら、土壌汚染対策を実施していく予定。

＜放射線管理区域の状況＞

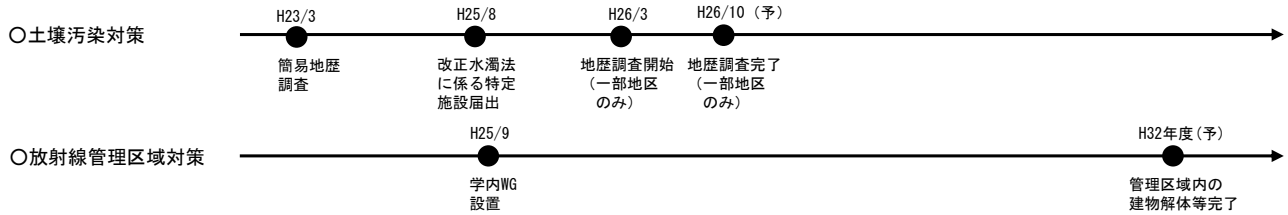
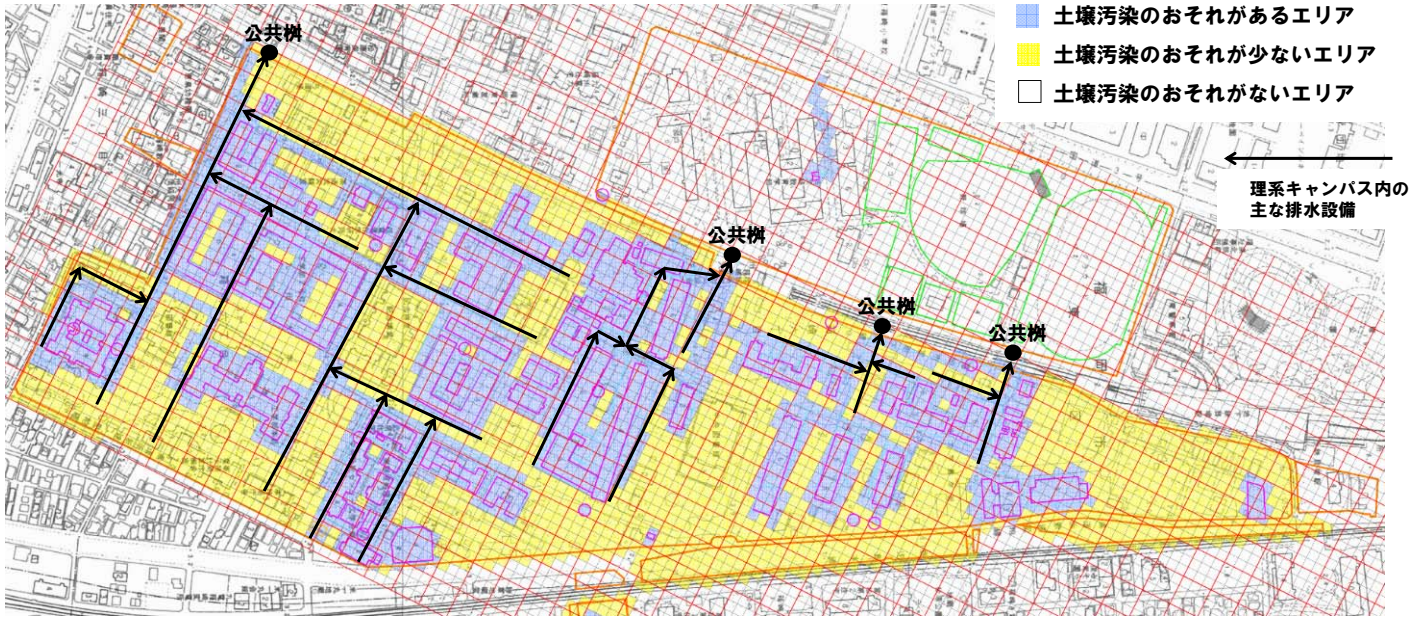
・理系キャンパス内には、放射線管理区域が存在。

・受入れ施設となるＲＩセンターが、平成26年度までに伊都キャンパスに設置されることが決まっており、理学系・農学系の移転の進捗に合わせて、管理区域内の建物解体等実施していく予定。

◆ 土壌汚染対策の今後の作業フローと役割分担イメージ



◆ 土壌汚染対策等のスケジュール



◆ 箱崎キャンパス 土壌汚染関係図（H23/3簡易地歴調査結果と排水経路イメージ）